

< 1 学期終業式にて >

1年間の半分が過ぎました。このコロナ禍でも、時間は、止まることなく、一定のリズムで流れ続けています。人はそこにこの終業式のような儀式を行うことで区切りをつけています。今ここで発表してくれた3人の代表の人と同じように、この区切りで1学期の始めに立てた目標をしっかりと振り返ってほしいと思います。これから渡される通信票も参考にしながら、何が達成できたか。達成できなかったとしたらどうして達成できなかったのかを考えてください。

学校としてもこの1学期を振り返るとコロナ禍で何ができるかどうすればできるかを考えて取り組んできました。その中の全校授業や修学旅行などが新聞やTVに取り上げられました。修学旅行では昨年台風19号の被害を受けた丸森を支援するために取り組んだ「キセキのたぴぷりん」の商品開発が紹介されました。

キセキがなぜカタカナか。アンケートを基に命名されました。「キセキ」は昨年度の生徒会のスローガンにも使われていました。キセキの中には二つの思いが込められています。その思いを表す二つの漢字を思い浮かべてみてください。

一つ目は軌跡です。歩んできた足跡という意味があります。皆さんも1学期にそれぞれの軌跡を歩んできました。その軌跡は決して無駄にはなりません。むしろ無駄にしないでほしいのです。その軌跡を大事にすればもう一つの奇跡につながります。奇跡には未来の可能性という意味が含まれています。一学期自分では失敗したと思うこともしっかりとそれに向き合えば次への可能性へとつながります。キセキのたぴぷりんも修学旅行につながりました。

1週間後に2学期が始まります。「自分にとって何が大事なのか。」「何を大切にしていきたいのか。」をよく考え、1学期の軌跡をもとに、2学期の目標をしっかりと立ててスタートして新しい奇跡をおこしてほしいと思います。